

# 平成29年度 下水道事業の経営効率化支援事業

## 岩手町下水道事業経営診断及び経営効率化等検討調査 (調査対象箇所：公共下水道等)

【調査主体】岩手町

### 調査対象事業の概要／施設の概要

- 岩手町の下水道事業は公共下水道のみであり、平成14年より供用開始している。
- 近隣の自治体は八幡平市(公共、特環公共、農集排)と葛巻町(農集排)である。
- し尿処理は盛岡北部行政事務組合の北岩手環境衛生センターで処理され、「汚泥処理施設」および「脱臭施設」で構成されている。

岩手町	公共下水道
処理区域内人口	5506人
普及率	39.5%
処理場	1箇所
計画処理能力	3500m <sup>3</sup> /日
管路延長	39km
経費回収率	69.11%

### 検討経緯等

岩手町下水道事業の現状を考慮すると岩手町単体では経営改善を見込むことが難しいと考えられることから、岩手町と近隣自治体(八幡平市、葛巻町)との広域化・共同化及び公共下水道施設へのし尿受入れを考慮することにより、経営改善策を検討した。

### 事業化に向けて解決すべき課題及び検討すべき内容

#### 事業化に向けて解決すべき課題

- ヒト
- 職員は他事業業務を兼任している状況にある。
- モノ
- 維持管理費総額において、類似処理場と比較すると、同程度～やや高い管理水準である。
  - 3市町の処理場は施設稼働率が低い。
  - し尿量は減少傾向にあり、維持管理費が増加。老朽化が課題であり、施設更新を計画
- カネ
- 経費回収率は3市町とも100%に達していない
  - 地方債償還金が大きな割合を占める。

#### 検討すべき内容

- 広域化・共同化
- 持続的な下水道維持管理のため3市町による広域化・共同化のとりくみ。
- PPP
- 事務業務の民間委託
  - 広域化・共同化や事務委託の推進によりコストの削減
- 統廃合
- 処理施設へのし尿の受入れにより、施設統廃合を進めることが考えられる。

### 調査の流れ／調査内容

#### 広域化・共同化の検討

岩手町及び近隣市町の経営分析

岩手町及び近隣市町へのABC分析実施

ワークショップ

連携手法の検討

ワークショップ

また、岩手町公共下水道へのし尿受入による改善可能性の検討を進めるものとした。

# 平成29年度 下水道事業の経営効率化支援事業

## 岩手町下水道事業経営診断及び経営効率化等検討調査 (調査対象箇所：公共下水道等)

【調査主体】岩手町

### 事業化検討

#### 広域化・共同化の検討

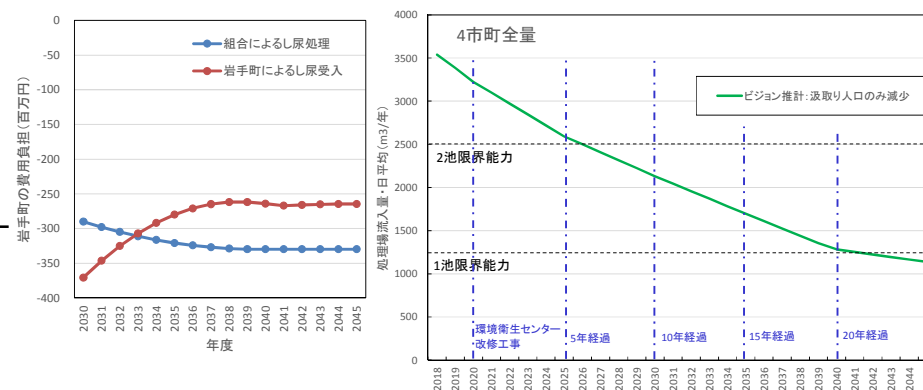
- ABC分析を踏まえ、広域的な官民連携の活用が考えられる業務項目を示し、民間サウンディングを実施した。

業務項目	体制への寄与/コスト削減	サウンディング結果
管路点検業務	3市町では維持管理の技術職員を要していない。将来的な民間委託による技術水準の確保が見込まれる。	管路更生等の改築を含む維持管理であれば事業規模として見込めると考えられるが、管路が比較的新しく、現状では改築需要は見込めない。
施設維持管理	委託費に占める割合が多く、広域化・共同化に合わせた広域的PPPの活用により、コスト削減が期待できる。	3市町でも十分な事業規模が見込まれるが、改築を含むことが望ましい。対象施設は多い方が望ましいが、農集排施設等を除くことも考えられる。

- 3市町の将来的な技術水準の確保のため、下水道公社もしくは一部事務組合への委託を目指すことが考えられる。
- 下水道公社での受入れ体制の構築が最も期待されるが、公社やその他機関における下水道施設の維持管理技術者を確保・育成することも課題である。

#### 公共下水道へのし尿受入れ検討

- し尿量が少なくなれば、現状の1系列運転のまま、受け入れが可能
- し尿量の状況によっては、岩手浄化センターにおける「し尿投入」を行うことで、岩手町としてコストメリットが得られる可能性が示された。
- し尿量が少ない場合、過大投資となるため、今後し尿量の推移に注視することが重要である。



### 今後の進め方

広域化・共同化による事業規模拡大や業務効率化を図るため、盛岡チーム(盛岡市、滝沢市、雫石町、矢巾町、紫波町)と連携も考えられる。本件で検討した事業スキーム案を活用しつつ、スケールメリットが効きやすい事業範囲を検討していくことが考えられる。

### 想定される課題

下水道公社や新たな事務組合での受入体制の構築が最も期待されるが、下水道公社や盛岡北部行政事務組合において下水道施設の維持管理に携わる技術者を確保することやコスト削減効果を示すことも今後の課題となることが予想される。